（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470400132		
法人名	有限会社花しょうぶ苑		
事業所名	グループホーム花しょうぶ苑		
所在地	三重県亀山市本町1丁目2番12号		
自己評価作成日	令和2年8月11日	評価結果市町提出日	令和2年11月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470400132-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和　2　年　9　月　4　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員は地域と共に「和気あいあい」をモットーに利用者とかかわっている。家庭的な雰囲気で笑顔とチームワークで安心して暮らせるようケアに取り組んでいる。また同じ建物内にデイサービスがあるためお互い職員も協力しあって支援している。利用者にとってもデイサービスの利用者との交流の場となり刺激をもらっている。近くの小学校、高校の生徒との交流も開設以来続けている。家族や地域の方もいつでも訪問し何でも話ししやすい雰囲気を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

この事業所は、理念が示すように利用者が和気あいあいとしており、互いに何でも話し合える雰囲気で過ごしている。例えば事業所の日常活動に、講師がいなくとも自分たちでレクリエーションの工夫をしたり、事業所の祭には飾りや食べ物を相談したり、主体的に過ごしている。また職員は、会議や研修等をとおして研鑽を積むとともに働きやすい職場になっている。会議では自分の意見が上司に伝えやすく、研修では毎年職員交代で外部研修に参加したり、資格取得に向けて勉強する等により、働きやすさが理解される。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スーペスに理念「和気あいあい」を提示し管理者、職員は家庭的な雰囲気と地域のかかわりを大切にしながら生活できるよう日々のケアに取り組んでいる。	理念が具体化されたように家族的で利用者と職員が日々仲よく過ごしており、利用者は職員をお兄さん・お姉さんと呼んだり、分からないことは利用者間で聞いたり、話し合っている。入居期間の長短に関係なく皆が一つになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の小学校の子供達の施設の訪問があり歌やゲームなどを楽しまれたり、近所への散歩で近隣の方々との挨拶をするなど交流ができている。	昨年までは地域の祭や市（いち）の売り場に利用者と共に行ったり、小中学校の体験授業や高校の実習体験の指定を受けたりしていた。今はコロナ禍で交流の多くが中止されている。このため密にならない場に事業所だけで出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中学生の福祉体験、亀山高校生の介護実習を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センター、民生委員、自治会長などにも参加して頂きアドバイスや要望などを聞き、サービスの向上に活かしている。また利用者と一緒に行事に参加してもらっている。	昨年度は定期的に開催したが、本年度はいずれも中止するしかなく、資料をメンバーに送付した。昨年はメンバー以外に地域住民にも参加呼びかけたら、若干名が参加した。家族は仕事上、メンバーは固定しない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新手続きや運営推進会議録の提出など包括支援センター、広域連合に出向いている。市主催の検視には参加し情報交換などを図っている。	介護保険関係の業務は広域連合事務所と話し合っている。研修はこれまで毎月1回亀山市が主催しており、職員交代で参加していたが、本年度はすべて中止された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵をかけずに支援するなど見守りをしっかりすることにより日常的に拘束をしないケアに取り組んでいる。また研修や勉強会にも参加し身体拘束について職員間で話し合いを行っている。	これまでも拘束を要するような利用者はいなかった。外部研修の機会あれば職員が参加し、所内グループ会議で報告・討議・研修をしている。特に、何気ないスピーチロックに注意して意見交換し、記録している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	グループ会議で、身体的にはもちろんのこと特に言葉の暴力に関しては職員同士で話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常々利用者が住み慣れた場所で安心して暮らせるよう、また一人ひとりの状態に合わせたケアをすることが大切だと話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に本人や家族と話し合う機会をもち、見学時には利用者や職員と話ししてもらい安心して入居できるよう、また納得のいくよう説明し契約や解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様と利用者様の状態等について情報交換や要望等話の出来る場面を多くとっている。また利用者様の思いなどできるだけ多く聞き入れるよう日々の日常会話などを大切にしている。	地元からの利用者が多く、家族も近くに住み面会は始終ある。遠くても名古屋市であり適宜面会されている。しかし今は面会を断わり、来訪時は窓越し面会にし、意見や情報交換は電話や手紙にしている。家族の意見があればケアプランに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務のなかで自由に意見や要望、アイデアなど聞き入れケアの質の向上などにいかしている。	毎月1回、グループ会議（職員会議）を行い、活発な意見交換をしている。職員が上司に意見を言いやすい会議になっている。最近、職員の意見でエアコンの修理、インターフォンの改善を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の賞与に過去半年間の勤務態度や実績を反映させている。また自己評価表を記入してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、年一回は必ず参加するよう義務付けており研修後はレポート提出、会議で報告、フィールドバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	亀山市地域密着型サービス事業所連絡会主催の勉強会に参加し近隣のグループホーム等と情報交換を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	デイサービス利用からグループホームに入居される方もあり職員とも顔なじみで思いを伝えてもらいやすい雰囲気作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等から在宅時の様子を聞き本人や家族の思い、求めていることを踏まえこれからの暮らしのケアについて話し合い家族との関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族の思いや現状を聞き取り困っている事等には全職員で対応策を考え可能な限り柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から職員はみんな家族という思いで接しており、いい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には利用者の日頃の様子を伝えている、また家族との外出時の様子を聞いてケアに活かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に積極的に出かけたり、馴染みのあるスーパーなどに一緒に買い物に出かけたりできるよう支援している。	近隣から入居した利用者が多く（併設のデイサービスから入居等）、馴染みの人とデイサービスで一緒にレクリエーションしたり、地域の友人等が時々来訪されたりする。今はデイサービス以外の交流ができなくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特性や能力を活かし生活のなかで役割分担ができている。利用者どうしが助け合ったりしているのを見守り、ときには話の輪に入ることもある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設入所後も病院、施設を訪問し、近況も家族より尋ねたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や家族様との会話により、利用者本位のサービスの提供ができるに努めている。	日常の利用者間の会話に職員も適宜加わる等で、気持の把握や理解を深めている。時には夜勤時に、眠れない利用者が起きだし20～30分話込んだり、散歩時の会話等もあり、そんな時に本音が語られたりする。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族などから今までの生活の様子などを聞いているが入所後のちょっとした生活の変化に家族もびっくりされることがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者の生活リズムを把握し個々の状態に応じた過ごし方をしてもらっている。日によって状態が変化することもあるので注意深く見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の日々の情報交換は、毎月のグループ会議で話合い、また本人、家族、職員の意見を取り入れ、その人らしく生活できるよう介護計画を作成している。	グループ会議を利用し、職員ミーティングで3か月毎に各自のモニタリングをしている。この会話記録や家族の意見等を基にケアプランを作成している。記録は分かりやすく簡潔にまとめられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送りノート、各種チェツク表に日々の様子や本人の言葉などを記録し職員間で情報の共有をし、利用者が穏やかに日々の生活が送れるように計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて受診の付き添いや買い物などその都度対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方から情報を頂いたり亀山大市や協働センターでの催しに出かけ、出かけた先は地域の交流の場となり、地域と関わりながら暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診がある。また緊急時も24時間指示が受けられるようになっている。	利用者全員が協力医の診察を受けている。協力医の診療所は車で30分ほどかかるが、毎月の定期往診の他、緊急時には電話一本でいつでも気軽に来てくれる。他の専門医受診には家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサ―ビスの看護師、また協力医からアドバイスをうけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が見舞い主治医や家族、病院関係者などと治療経過や退院後の事を話し合い、できるだけ早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	リビングウィルを入居時に記入して頂き本人、家族の希望にそうよう、主治医のアドバイスを参考にし、チームで支援に取り組んでいる。	看取りに関するマニュアルを策定しているが、実際にも看取り経験をしている。所内研修では、家族の希望、協力医の意見、マニュアル等を基に対応方法を学習している。しかし夜勤者は不安も抱えるので、急変あればホーム長に連絡する体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設のデイサ―ビスの看護師、また協力医からアドバイスをうけているデイサービスの看護師や応急手当の研修を受けた職員から教わり急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回デイサービスとの合同避難訓練を利用者と一緒に行っている。緊急時の対応も常々話し合っている。	毎年6月と10月に併設のデイサービス合同で総合避難訓練をしている。訓練は地震・火災を想定し、通報・避難・誘導・消火訓練等を行っている。本年はコロナの影響で消防署が参加できなかった。	全くの他人同士が居住する事業所では、防災訓練の充実は大切である。従来の訓練に加え、更なる充実を図るため、夜間想定訓練・全職員招集訓練等も具体化されるよう期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や一人ひとりに合わせた言葉を選び笑顔で話せるよう、人格を尊重した言葉かけや対応を心がけている。	人それぞれの個性に応じた対応を心掛け、その人なりの個性や性格を見極めながら、姓を呼んだり名前を呼んだりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話から献立や行事、製作を考えたりしている。意思表示が苦手な方は例をあげて決められるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に応じて、フロアーで過ごしたり、居室で休んでいただいたり、各自のペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の床屋さんに来てもらって、その人にあった髪型にしてもらったり、服装は自分でコーディネートしたり、出来ない方は職員が寄り添い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好きなものや食べたいものなど、希望を取り入れた献立を作り調理などもできる範囲で後片付けも手伝っていただいている。	3食とも職員の手作りであり、炊事担当は1カ月交代である。メニューは好みを聞き、栄養・食材のバランスを考慮している。買い物には週2回ずつ利用者と行くが、今は同伴できない。また、調理を手伝う利用者もいたり、行事食も工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や食事量、水分量を把握し栄養やバランスを考え多種類の食材を使用するよう心がけている。目でも楽しめるよう彩、盛り付けも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけをし磨き方が不十分な方には、職員が介助している。全員ではないが、月1で訪問歯科治療で口腔ケアをしてもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しその人に合わせた対応を行っている。日中は立位のとれない利用者もトイレでの排泄を心がけている。	布パンツ使用が4名、リハビリパンツ使用が4名(うち2名は夜間のみおむつ使用)、終日おむつ使用は1名であるが、排泄介助する場合もトイレ誘導を基本にしている。便秘は多いが、下剤は主治医が指導した場合のみ使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便ができるよう朝の体操をしたり、繊維質の多い食材や水分、乳製品などの摂取や食事量にも配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2，3回程度の入浴だが、希望や状況に応じて対応している。	入浴時間は、好みで午前中利用と午後利用に分かれるので特に決めていない。なるべくゆっくり入るようにして、風呂嫌いでも誘導次第で入浴してもらっている。介助者の男女別は決めていないが、見守りのみをする場合が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前午後とその人の体調に合わせて居室にて休んでもらっている。夜間はその人に応じた薬剤を処方してもらい睡眠が摂れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明は個人ファイルに綴じ常時見られるようにしている。症状の変化や薬の変更は申し送りノートで確実に伝わるようにしている。薬は手渡し、服薬後は空袋をもらい確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などから、家事の手伝いや書き物、手芸などの得意分野で各自が活躍できる場をつくっている。役割を担うことで生き生きとされ意欲向上にもなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花見、行事や近くの散歩買い物、家族様との外出等戸外に出かけられるよう応じている。	花見で桜・花しょうぶ・コスモス等を見たり、誕生会は回転すしへ行ったり、散歩は適宜職員が1対1で同行している。コロナ禍で外出できないが、なるべく外気に触れるようにしている。家族は食事・通院・墓参等に連れていくが、家族が行けない時は職員が同行することもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	恒例の亀山大市で少額のお金をもって買い物をしてもらったり、職員と一緒にスーパーに好みのお菓子を買いに行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自分の思いを家族に伝えられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や塗り絵、貼り絵、書道、行事の写真など季節を感じられる空間作りに努めている。	昼間は皆が食堂兼ホールに出てくる。互いに話し合い、新聞を読んだり絵画や書道に取り組んだり、祭りの時の材料づくりやプログラムを相談したり、いずれも特に講師はおらず自分たちで相談・工夫して和気あいあいと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった場所で過ごすことが多いが気の合った同志過ごせるようにフロアーの片隅にソファーを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、小物、家族の写真など自分の好みのものを飾ったりして個性を大切にしている。	ベッドとエアコンは事業所が設置しているが、あとはそれぞれが暮らしやすいよう、自宅で使ったものや使いやすい品を入手して部屋に持ち込んでいる。ベッド配置は好みで変えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室の入り口には表札をかけており、居室、フロアーと心地よく過ごせるよう工夫している。		